

にかほ市について



△注意！必読のこと！！ 本資料中の説明は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用にあたっては、地元の地形・地質や地下水等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにして下さい。

にかほ市の概要

- 秋田県の南西部に位置し、南東に鳥海山、西に日本海を臨みます。
- 面積は 241.13 km²です(平成 31 年 4 月 1 日現在)。
- 人口は 24,291 人です(令和元年 12 月 31 日現在)。
- 平成 17 年 10 月 1 日に、仁賀保町・金浦町・象潟町が合併して、にかほ市が誕生しました。
- 鳥海山の溶岩の中を通過してしみ出る元滝伏流水や、鳥海山の裾野に広がる仁賀保高原にみられる、大小の湖沼や湿原など、美しい景観と豊富な湧水に恵まれています。
- 気候は、降雪量が少なく、県内では春の訪れが最も早い温暖な地域です。
- 九十九島や元滝伏流水など、複数のジオサイトが存在します。
- 特産品として、天然岩ガキ、タラ、ハタハタ、無花果、日本酒、米などがあります。
 - 4 つの漁港があり、天然岩ガキやハタハタ、タラ、アワビなどが水揚げされます。
 - 鳥海山系伏流水を仕込み水として造る日本酒は全国的に有名です。



▲元滝伏流水(市 HP)



▲仁賀保高原(市 HP)



▲漁港

にかほ市の地形的特徴

- にかほ市は、南東に鳥海山、西に日本海を臨む山と海に抱かれた地域です。
- 鳥海山の山頂から海岸線までは直線距離にしてわずか 16km しかありません。
- 鳥海山は、約 60 万年前からの火山活動によって流れた溶岩が重なり合い形成されました。冷えて固まった溶岩は浸透性が高く、雨や雪が地下まで浸透します。
- 約 2500 年前(紀元前 466 年)に鳥海山が噴火し、山体崩壊が起こりました。それまで富士山のようにとがった形をしていた鳥海山は、北にえぐれた形になりました。
- 山体崩壊後、山頂から滑り落ちた巨大岩塊の集積で「流れ山」と呼ばれる小山の集まりが白雪川に沿って一気に流下し象潟平野まで達し、にかほ市の平らな大地をつくりました。さらに先端は日本海に突入し、東西 1km 南北 2km にわたり海の中に浮かぶ「九十九島」を形成しました。



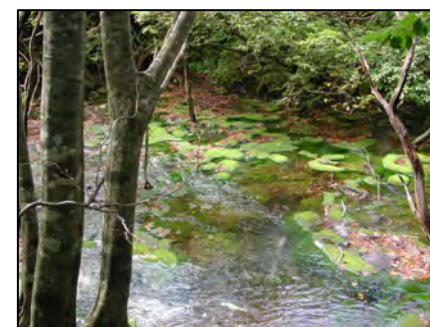
▲九十九島(市 HP)

にかほ市と水

- にかほ市は鳥海山の伏流水により水が豊富であり、水に関連した名勝が多く存在します。また、伏流水は、海岸や沿岸部の海底からも湧出し、豊かな海底資源を生み出します。
- 「獅子ヶ鼻湿原」は、秋田県にかほ市の鳥海山の北西山麓に位置し、レクリエーションの森「鳥海自然休養林」に設定されています
 - 森では「出つぼ」と呼ばれる湧水池をはじめ、11 箇所から伏流水が湧き出ており、広さ約 26ha の獅子ヶ鼻湿原を形成しています。
 - 流水の中でボール状に発達した「鳥海マリモ」は、ここでしかみられない天然記念物です。
- 「上郷温水路群」は、鳥海山からの融雪水による冷水障害を改善するため、水路幅を 5.4~20.0m と広くして水深を浅くし、連続して落差工を設けた日本で初めての温水路です。疏水百選や県の有形文化財(建築物)に認定されています。



▲獅子ヶ鼻湿原(市 HP)



▲鳥海マリモ(市 HP)



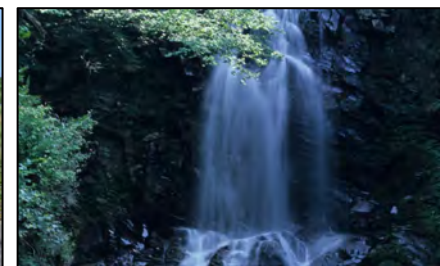
▲上郷温水路群

鳥海山・飛島ジオパーク

- ジオパークは、ジオ(地球)に関わるさまざまな自然遺産、たとえば、地層・岩石・地形・火山・断層などを含む自然豊かな「公園」のことです。
- 2016 年に秋田県にかほ市、由利本荘市、山形県遊佐町、酒田市にまたがる「鳥海山・飛島」地域が日本ジオパークネットワークへ認定決定されました。
- にかほエリア内の見どころとして、①九十九島、②由利海岸波徐石垣、③仁賀保高原、④奈曾の白滝と金峰神社、⑤上郷温水路群、元滝伏流水、⑦中島台・獅子ヶ鼻湿原、⑧三崎海岸が紹介されています。



▲由利海岸波徐石垣(市 HP)



▲奈曾の白滝(市 HP)



▲三崎海岸(市 HP)